

# 枚方市議会の 自民党会派が1つになりました。

昨年11月7日、自由民主党議員団に前田議員・長友議員が合流し、枚方市議会での自民党会派が統一しましたことをご報告いたします。



松本佑介

自民党枚方支部政調会長・枚方市議会議員



長友かつよし

自民党枚方支部支部長代行・枚方市議会議員



田口よしのり

新自民党枚方支部長・枚方市議会議員



前田富枝

新会派代表・自民党枚方支部総務会長・枚方市議会議員

## 新自由民主党議員団、始動。

駅前再整備と市役所の建て替えは枚方市にとって大きな転換期。しかし、今の計画ではにぎわい創出や、子育て世代に選ばれるまちという本来の目的を達成できない懸念が…。100年先まで考えるからこそ、

### 自由民主党議員団は妥協しません。

### 平成型の都市再開発 はもう古い!!

### 令和の時代に合った 持続可能なまちづくりへ!

再整備計画・市役所移転計画の課題点を  
自由民主党議員団が解説!

詳しくはウラ面へ



平成期の市資料に描かれているイラスト  
(枚方市ホームページより)

市民を代表して、駅前再整備計画・市役所移転計画が適切であるか吟味し、課題があれば行政に指摘し、市民に伝える。これがこそが市議会議員の使命です。

# 市役所の建て替えは急務！しかし現行案は課題が多過ぎる…

枚方市は「子育て世代に選ばれるまち」を目指しており、枚方市駅周辺再整備事業の目的として「ゆとりと賑わいの創出」を掲げていますが、私たち

自由民主党議員団は、現在の計画ではこれらの実現が不十分になってしまうという懸念を払拭できないと考えています。

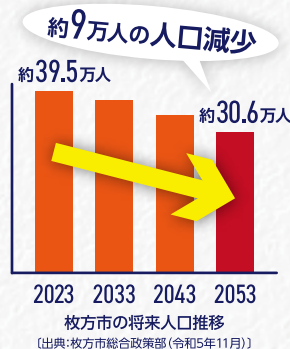
## 1 人口減少・デジタル化などを考慮していない庁舎移転案

枚方市の将来推計人口は2050年頃に31万人を割り込む見通しで、現在から約9万人の人口が減少する想定です。

さらにデジタル化・DXの進展から行政サービスが急速にスリム化してきていることから、近年、庁舎移転の検討時には、今後の変化を見極めて、時代に即した庁舎を検討することが不可欠になっています。事実、大東市で

は市役所移転を見送りました。

現在進められようとしている市駅周辺再整備・市役所移転計画は、時代に逆行する“平成型の都市再開発”であり、令和の時代に合った計画が求められます。



## 2 タワマン誘致によって「ひらかたまつり」などにも制約が？ せっかくの「みどりの大空間」がにぎわい創出に繋がらない…

市は、再整備計画において「みどりの大空間」と称した芝生エリアを計画しており、現在のニッペパーク(岡東中央公園)から約2倍に拡張される想定です。しかし、隣接して誘致されるタワマンション(タワマン)によって今後の「ひらかたまつり」や音楽系イベント、市民行事などの開催に何らかの影響が生じることが懸念されます。

から一定の規制が設けられることが多くあり、せっかく「みどりの大空間」を整備してもにぎわい創出の効果が制限されてしまう可能性があります。

また、枚方市駅周辺は商業・オフィス機能により周辺から人を呼び込める“商業エリア”であり、住宅化が進むと枚方市駅の集客力が弱まります。実際、神戸市のように商業エリア内に居住スペースが混在することによる弊害を防止するべく、タワマン建設を規制する自治体も出てきました。

## 3 「みどりの大空間」と複合施設の間には車道、子供に危険な空間設計に 子育て世代に選ばれるまちの顔としてふさわしくない

市は、再整備計画において「ウォークブル」すなわち歩いて楽しめるまちづくりを謳っています。しかし、新たに複合施設を誘致するエリアと「みどりの大空間」の間には車道を追加設置することとしており、歩行空間を分断する自己矛盾的な内容になっています。

を呼び込むことを目的としているものの、目の前に見える「みどりの大空間」と行き来するには車が通る道路を横断しなければならず、子供にとっては大変危険な環境です。子育て世代に選ばれるまちの顔となる公園として相応しいものとは言えません。しかも、人が集う「みどりの大空間」と複合施設との人の流れも遮断され、経済効果に結びつきにくいのも問題です。

さらに複合施設には子育て支援や教育関連の施設を整備し、子育て世代

枚方市駅周辺再整備計画・市役所移転計画に関する

## よくあるご質問にお答えします！

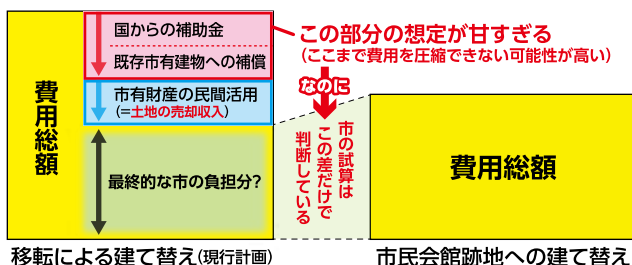
**Q** 市役所は、場所を移転して建て替えるほうがお金がかからないって本当？

**A** いいえ、総額では移転のほうが高くなります。

たしかに市の資料では、市民会館跡地での建て替えよりも移転する場合のほうが市の費用負担が少ないという説明がありますが、これは土地売却分の金額などを差し引いているから“最終的な”市の負担分が小さくなっているだけです。言い換えれば、市の(市民の)財産である土地を失わなければ成り立たない計画であり、この点がまったく説明されていないことも大きな問題です。

さらに国からの補助金などは想定が甘すぎて、ここまで市の負担分を圧縮できない可能性も危惧されます。総額での費用だけで比較すれば、移転するほうが圧倒的にコストが高いことから、再度信憑性の高いシミュレーションが求められます。 (令和6年2月全員協議会より)

(図)市の費用負担イメージ



**Q** 大規模な再整備事業になりそうだけど、市の財政に悪影響はないの？

**A** 明らかに市の財政は悪化します。住民サービスの低下も懸念される状況です。

枚方市の財政は、基金残高が減少し続けながら、経常収支率は常に90%台後半で推移しています。一般家庭に置き換えれば、貯金を切り崩してなお、自転車操業で生計を立てているような状況です。

そこへ駅前再整備の費用がかさめば、さらに財政は悪化します。議会において質したところ、今後十分な住民サービスを提供できない可能性まであることが明らかになってしまいました。こういったリスク情報も市民にきちんと開示すべきと考えます。 (令和6年2月全員協議会より)

**Q** そもそも市役所を移転しなければ駅前再整備も実現できないの？

**A** そんなことはありません。市役所移転とは区別して検討すべきです。

駅前再整備と市役所の建て替えは本来まったく別物です。特に市役所の建て替えは移転だけでなく、現地で市民会館跡地での建て替えなど選択肢が多く、いずれの方向性にも定まっていません。

駅前再整備をスピーディに進めるためには、まだ何も決まっていない市役所移転とは一旦区別し、フラットに全体計画を構想するべきです。現在の再整備計画には課題点も多いことから、一度原点に立ち返って再度検討することを求めています。